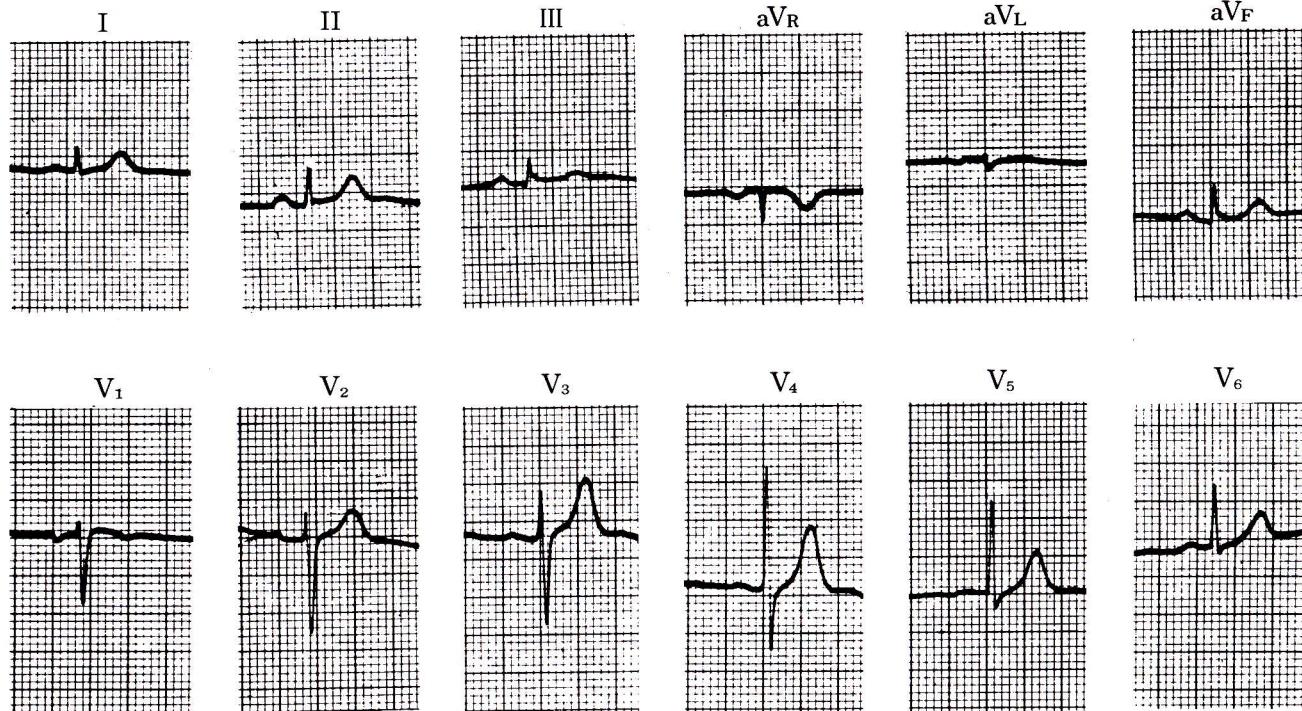


症例 24

●65歳 男

●慢性肝炎で通院治療中の患者である。



- 1) 肢誘導のQRS波振幅はどうか。
- 2) 胸部誘導のQRS波振幅はどうか。

正常（肢誘導のみの低電位差）

肢誘導の Q R S 波振幅はいずれも 5 mm 以下であるが、胸部誘導では振幅が 10 mm を超えるものがある。肢誘導のみの低電位差である。

V_1 の P 波は 2 相性であるが、 P terminal force は $0.04 \text{ mm} \cdot \text{sec}$ 以下であり、 左心性 P 波の基準を満たさない。本心電図の診断は正常である。

〈肢誘導のみの低電位〉

低電位差が肢誘導のみで認められ、胸部誘導では振幅が 10 mm を超える場合は四肢の高度の浮腫、進行性全身性強皮症などで認められるが、健常でも老人や Q R S

ベクトルの向きによって生ずることもあり、これだけでは異常ということはできない。